

富士登山における安全確保のためのガイドライン

(主に夏山期間以外における注意事項)

平成 25 年 7 月 策定
平成 27 年 3 月 改定
平成 27 年 12 月 改定

富士山における適正利用推進協議会

富士登山における安全確保のためのガイドライン (主に夏山期間以外における注意事項)

1 趣 旨

富士山は日本で最も高い独立峰であり、年間を通じて気象条件が厳しいために、多くの遭難事故が発生している。夏山期間(※)の登山者については毎年30万人前後で推移しているが、夏山期間以外の時期も多くの登山者の利用が見られるのが現状である。

夏山期間以外は、気象条件が特に厳しいために遭難事故が発生するリスクが非常に高くなっているほか、トイレが閉鎖されているために登山者の排泄物が山中に残置され、貴重な山岳生態系に悪影響を与えている。平成25年6月に富士山が世界文化遺産に登録されたことを受け、富士山における遭難対策及び環境保全の観点から、早急な対策が必要な状況にある。

このガイドラインは、富士山における遭難事故の防止及び自然環境を保全するため、登山者に対し、登山に関する注意事項等を広く周知し登山における安全を確保するとともに、特に、登山道が全面通行止めとなる夏山期間以外の時期において、十分な技術・経験・知識としっかりとした装備・計画を持たない者が、登山しないことを強く求めるものである。

※夏山期間とは、例年7月上旬から9月上旬までの登山道の開通期間をいう。

<参考> 富士山における遭難事故の発生

- ・ 毎年、滑落などで多くの遭難事故が発生しており、死者、行方不明者が出ている。
- ・ 気象などの情報不足、観光気分、軽装・十分な装備を持たない、道迷いなどのほか、体調に不調を感じた場合や天候が悪化した場合での無理な登山や過密スケジュール、強行日程によることなどが主な原因である。

《遭難事故件数等の推移》(※山梨県警、静岡県警のデータをもとに作成) (過去10年間)

年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
遭難件数	22 (12)	25 (12)	33 (14)	48 (10)	48 (11)	59 (17)	56 (18)	62 (27)	113 (31)	74 (19)
遭難者数	30 (15)	30 (15)	40 (17)	56 (13)	57 (13)	66 (17)	61 (22)	76 (34)	121 (37)	80 (19)
うち 死亡者数	7 (4)	4 (3)	3 (3)	8 (3)	10 (4)	8 (4)	6 (4)	13 (12)	13 (11)	10 (6)
登山者数 (環境省調査)	200,292	221,010	231,542	305,350	292,058	320,975	293,416	318,565	310,721	285,494

※()内は、夏山期間以外の遭難件数、遭難者数、遭難死亡者数

※環境省による登山者数の調査は、2005年から各登山道の8合目付近に赤外線カウンターを設置して行っている。

2 万全な準備をしない登山者の夏山期間以外の登山禁止

夏山期間以外の時期(※1)は、十分な技術・経験・知識としっかりとした装備・計画を持った者の登山は妨げるものではないが、以下の理由により、このような万全な準備をしない登山者の登山(スキー・スノーボードによる滑走を含む)は禁止する。

この時期は、夏山期間以上に気象条件が厳しく、登山道は全面通行止め(※2)となっており、救護所、トイレなども閉鎖、携帯電話が通じにくいなど、安全の確保が困難である。また、登山

道以外についても安全を確保することは難しい。

特に、積雪期には傾斜が急な斜面が広範囲に渡って凍結するため、転倒等で滑落した場合に死亡事故につながる可能性が高い。

しかしながら、実際には登山者等が見られる中で、遭難事故が増加しており、2014年の夏山期間以外の遭難者数は19人、うち死亡者数が6人に上るなど深刻な状況で、警察、消防など地元関係者は危険な遭難救助の対応を強いられている。

登山は、あくまで自己責任（※3）において行われるものであるが、自己の生命を守るため、また、遭難、行方不明時の迅速な救助のため、特に夏山期間以外の登山等に際しては、公益社団法人日本山岳協会等が推奨する「登山計画書」を必ず作成・提出すること。

なお、「登山計画書」を提出したとしても、そのことをもって登山道の通行を許可したことにはならない。

- ※1 夏山期間の登山についても、「4 夏山期間の登山に係る注意事項について」を参照のこと。
- ※2 夏山期間以外において、登山道は、道路法第46条により全面通行止めとなっている。
- ※3 登山する場合は、自己責任において身の安全を守る。

○厳しい気象条件

- ・ 春期（概ね4月末～6月末）

急激に気温が低下することがあり、雪面の凍結により、冬期と同様に滑落から死亡事故につながる危険がある。また、雪崩や雪解けにより緩んだ浮石による落石が多発する。

- ・ 秋期（概ね9月中旬～11月下旬）

暴風や台風による悪天候、気温低下による急な風雪などが起こる。

- ・ 冬期（概ね11月下旬～4月末）

さらに気象条件が厳しく、氷点下30度を下回る気温、風速30m以上の強風も稀ではない。

《富士山 過去10年間の月毎平均気温》

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
1月	△ 18.9	△ 18.7	△ 16.9	△ 16.8	△ 17.9	△ 18.4	△ 22.5	△ 19.9	△ 19.4	△ 18.1
2月	△ 17.0	△ 14.2	△ 15.9	△ 20.4	△ 15.1	△ 14.5	△ 15.2	△ 18.0	△ 17.4	△ 15.8
3月	△ 15.9	△ 15.8	△ 15.0	△ 13.8	△ 14.7	△ 11.4	△ 18.1	△ 14.7	△ 12.1	△ 14.6
4月	△ 8.1	△ 10.1	△ 11.2	△ 8.9	△ 8.6	△ 8.9	△ 11.1	△ 9.6	△ 10.5	△ 10.4
5月	△ 3.8	△ 1.4	△ 5.1	△ 2.6	△ 3.0	△ 4.0	△ 3.5	△ 5.6	△ 3.7	△ 4.5
6月	2.5	1.6	1.3	1.3	0.2	1.4	1.3	1.1	1.9	1.0
7月	4.8	5.2	5.1	6.3	4.6	5.8	6.9	5.6	4.7	5.6
8月	6.0	6.9	6.4	6.2	6.6	8.3	6.8	7.1	6.4	5.3
9月	4.5	3.7	5.4	3.7	3.4	4.6	4.1	3.5	5.0	1.8
10月	△ 1.1	△ 1.6	△ 2.4	△ 2.5	△ 3.7	△ 0.5	△ 2.0	△ 2.9	0.3	△ 2.1
11月	△ 11.4	△ 8.9	△ 9.7	△ 10.4	△ 7.9	△ 10.0	△ 6.5	△ 11.2	△ 11.5	△ 8.2
12月	△ 21.4	△ 13.6	△ 15.2	△ 14.2	△ 15.0	△ 15.5	△ 16.4	△ 16.7	△ 16.7	△ 18.5

※気象庁ホームページ 気象計情報 過去10年間の年月日毎の値より引用

○遭難・事故例

- ・ 2012年12月5日午後2時頃、滑落して左腕を骨折した46歳男性から110番で救助要請があり、午後3時10分県警へりと登山口から山岳遭難救助隊が捜索に向かったが、強風のためヘリが接近不能で発見できず、午後6時30分日没で捜索中断。翌日遺体発見。
- ・ 2012年3月9日午前0時35分、寒さから行動不能となった38歳男性から110番で救助要請があり、山岳遭難救助隊が当日を含め5日間捜索したが未発見。夏になり遺体で発見され、収容。
- ・ 2014年5月4日午後0時30分頃、富士山噴火口周辺で、スノーボードをしていた23歳男性が数十メートル滑落し、死亡。また、この男性の救助活動にあたった単独登山中の42歳男性も滑落して行方不明となり、富士宮口八合五勺付近で遺体として発見。

○登山計画書提出先

- ・ 下記のいずれかに登山計画書を提出するほか、予定日までに下山をしていない、連絡がとれないなど遭難に気付くことができる方（家族、クラブ（山岳会）、職場、学校など）に計画を知らせておくことは、迅速な救助に不可欠である。
- ・ 登山計画書は一週間程度の余裕を持ち、早めに提出する。

吉田ルート	山梨県警察本部地域課 〒400-8586 山梨県甲府市丸の内一丁目6番1号 TEL 055-221-0110 FAX 055-224-1180 富士吉田警察署 〒400-0016 山梨県富士吉田市松山五丁目10番13号 TEL 0555-22-0110 FAX 0555-22-0110 登山口の登山届ポスト
須走ルート	静岡県山岳遭難防止対策協議会東富士支部 小山町役場住民福祉部防災課 〒410-1321 静岡県小山町阿多野130 TEL 0550-76-5715 FAX 0550-76-5910 御殿場警察署 〒412-0004 静岡県御殿場市北久原439-2 TEL 0550-84-0110 登山口の登山届ポスト
御殿場ルート	静岡県山岳遭難防止対策協議会東富士支部 御殿場市役所総務部総務課 〒412-8601 静岡県御殿場市萩原483番地 TEL 0550-82-4320 FAX 0550-82-4523 御殿場警察署 〒412-0004 静岡県御殿場市北久原439-2 TEL 0550-84-0110 登山口の登山届ポスト

富士宮ルート	静岡県山岳遭難防止対策協議会富士宮支部 富士宮市役所観光課 〒418-8601 静岡県富士宮市弓沢町 150 番地 TEL 0544-22-1155 FAX 0544-22-1385
	富士宮警察署 〒418-0062 静岡県富士宮市城北町 160 TEL 0544-23-0110 登山口の登山届ポスト

3 携帯トイレの持参

夏山期間以外の時期については、5合目以上の山小屋及び公衆トイレは閉所されている箇所が多くなるため、登山道沿いや山小屋の陰などに登山者のものと思われる排泄物が多く残置されているのが現状である。

富士山は日本で最も高い独立峰であり、独自の高山生態系が存在している貴重な地域であるが、人間の排泄物がもたらす土壌の富栄養化及び細菌等の非意図的導入による生態系への悪影響が懸念される。世界文化遺産に登録されたこともあり、今まで以上に保全に対する認識を強化しなければならない。

山中のトイレが使用できない夏山期間以外において、万全な準備をした登山者が登山を行う場合は携帯トイレを持参して自らの排泄物を回収し、持ち帰った排泄物については適切な処理を行うこと。

なお、回収ボックス等は設置していないので留意されたい。

4 夏山期間の登山に係る注意事項について

(1) 登山基本情報

ア 登山シーズン

- 登山道の開通期間は、例年、7月上旬から9月上旬までであり、登山ルートにより異なるので事前に確認をする。
- 山小屋、安全指導センター、救護所や公衆トイレ等は、施設ごとに開設期間が異なるため、事前に各管理者に確認する。

イ 登山口・登山ルート

- 富士山には、吉田、須走、御殿場、富士宮の4つの登山ルートがあり、標識や地図もルート毎に色分けされている。

《表 登山ルートと色分け》

ルート名	ルートの色	登山口名	●凡例 
吉田ルート	黄色	富士スバルライン五合目	
須走ルート	赤色	須走口五合目	
御殿場ルート	緑色	御殿場口新五合目	
富士宮ルート	青色	富士宮口五合目	

- 吉田ルートと須走ルートの道迷い注意
吉田ルートの下山には、山頂から八合目まで、須走ルートと同じ下山道を利用するため、八合目の吉田ルートと須走ルートの分岐を間違える方が多いので十分注意する。
(2015年人数(静岡県富士山ナビゲーター聞き取り): 981人)
吉田ルートは、「下江戸屋」という山小屋の前の細い道を左に折れる。



図 吉田ルートと須走ルートの下山道岔路地点

ウ 最低限必要な装備

- 夏山登山に最低限必要な装備は、出発前に必ず確認する。いわゆる観光気分での登山や思いつきによる準備不足の登山は、遭難事故につながりかねないことから絶対にしない。

○最低限必要な装備

登山靴またはトレッキングシューズ、上下セパレートタイプの登山用雨合羽、防寒具、吸汗速乾の肌着、軽くて温度調整のきく服装、ヘッドランプ、水(約2リットル)、行動食、ゴミ袋、帽子、トイレのチップ用小銭、携帯電話(携帯電話の電波が繋がりにくいため、予備バッテリーを装備)または無線機、荷物防水用の袋等、タオル、ティッシュペーパー、日焼け止め、医薬品、軍手、地図又はガイドブック、コンパス

- 突発的な噴火等に備えて、ヘルメットや防塵マスク、ゴーグルの持参を推奨する。ヘルメットは落石や転倒の際にも頭部を守る役割があり、また防塵マスク、ゴーグルは砂埃の多い下山道でも役立つ。

(2) 安全確保情報

ア 最新気象情報等の入手

- 登山前に必ず最新の気象情報・予報(天気、気温、風力、気圧、霧、雷など)や警報・注意報の発令状況、火山情報などを気象庁や当協議会のホームページなどで確認し、悪天候が確実な予報時には計画を延期するなど、無理な登山を執行しない。

イ 遭難・事故の危険の予防・回避

- 遭難は疲労や体力不足、装備不備、悪天候、高山病、持病、過密スケジュールなどが主な原因である。
- 登山初心者は、経験者又は登山ガイドを含むパーティー(団体)での登山形態をとり、単独登山は避ける。

① 天候急変

- ・強風、霧、雷の発生など、天候が急変しやすい。特に、強風時の山頂お鉢めぐりや宝永登山は危険である。
- ・また、濃霧の場合は道迷いの危険性が高い。落雷の危険がある場合には、最寄の山小屋へ緊急避難する。なお、山は午後に雷雲が発生することが多い。特に雷については、過去、落雷による死亡事故が発生しており、注意を要する。

② 落石事故

- ・富士山の地質は崩れやすく、浮石が多いため落石しやすい。過去には、死傷者も多数出ている。
- ・落石事故を防止するため、絶対に登山道はずれて歩かない。登山道に幅があるときはなるべく中央を歩く。(落石を起こさないよう登山道谷側の端を歩かない。万が一の落石を避けるため、山側の端もなるべく歩かない)
- ・休憩時には浮石が多い斜面の下は避ける。(落石注意の看板があるエリアにおける休憩は、なるべく避ける)
- ・落石を起こし、又は見た場合は、大きな声で叫び、周囲へ知らせる。
- ・宝永第一火口内は大規模な落石が起こりやすいので、現地に設置された立ち入り禁止ロープ内へは絶対に立ち入らないようにする。

③ 夜間登山

- ・夜間は道迷いとなるケースが多く、また、転倒・落石に当たる危険が大きくなることから、夜間登山はなるべく避ける。
- ・日中のみの登山計画でも、アクシデント等で日没になってしまう場合や、山小屋やトイレの中は暗い場合があるので、ヘッドランプは必ず携帯する。
- ・前日までの睡眠が十分でなく、夜登山開始し御来光をめざすといった短時間で休憩を十分にとらない「弾丸登山」は、疲労によるケガや高山病など健康上の問題が生ずる可能性が高いので避ける。
- ・小屋で睡眠中の他の登山者の迷惑になるので、夜間の山小屋前では騒がない。

④ 道迷い

- ・分岐点の見落としや登下山ルートの間違わないよう、標識や誘導ロープを確認しながら歩く。特に日没後や濃霧発生時には、ルートから外れないように十分注意する。なお、登山道に張られているロープは、誘導用のもので人を支える強度は無いため、体重をかけて引っ張らない。
- ・山頂から同一の吉田ルートと須走ルートの下山道は、八合目(下江戸屋横)で分岐している所以注意する。特に、吉田ルートの下山者が須走ルートに迷い込みやすい。

⑤ 高山病

- ・高山病は、急激な高度の変化に対応できずに、血中の酸素濃度が少なくなって発症する。
- ・高山病の症状は、疲労感や脱力感、頭痛、めまい、食欲不振など。症状が進むと吐き気や嘔吐の症状があらわれ、重症者では意識混濁や肺水腫、脳浮腫が出る。
- ・症状が発症した場合は、水分を多めに摂取し、深く呼吸し酸素を多く取り入れる。高山病は下山するしか改善できないため、無理せず早期に下山する。
- ・症状が重い場合は、救助を要請する。

(高山病の予防策)

- 高度に体を慣らすため、五合目で1時間から2時間程度、ゆっくり過ごす。もしくは麓から登る
- 一定のペースでゆっくり登る
- 定期的に短い休憩をとり、体力の消耗を防ぐ
- こまめに水分を補給し、新陳代謝を図る
- 腹式呼吸や、意識して深呼吸をする。ただし、過呼吸にならないように注意する
- 急激な気圧低下を防ぐため、登山途中の山小屋で宿泊する

⑥ 低体温症

- 平地と山頂との気温差が大きく（標高 100m毎に約 -0.6°C ）、山頂は、真夏でも氷点下になることがある。また、同じ気温でも風が吹くと体感温度が下がる（風速 1 m毎に約 -1.0°C ）ので注意する。
（例）標高 0 mで 30°C の時、山頂は約 7°C （100m上ると気温は 0.6°C 下がる）
さらに風速が 10mあれば、約 -3°C となる（風速 1 mで体感温度は 1.0°C 下がる）
- 特に体が濡れた場合や、強風時には、体温が奪われ、低体温症の危険が高まるため、防寒・防風・防水対策が必要である。

ウ 緊急時の対処方法

- 体調が悪くなったり、怪我をしたりした場合は、救護所（吉田ルート五合目、七合目及び八合目、富士宮ルート八合目）で応急手当を受けることが可能である。なお、救護所毎に開設期間が異なるため、登山出発前に確認をする。

(救護所)

富士山五合目救護所（吉田ルート）
富士山七合目救護所（吉田ルート）
富士山八合目救護所（吉田ルート）
富士山衛生センター（富士宮ルート八合目）

- 遭難時は、110番または119番に通報する。
- 通報の際は、標識の地点番号で位置を連絡する。
- 吉田ルートでは五合目にある富士山五合目総合管理センターへ、富士宮ルートでは五合目にある富士山総合指導センターへの連絡も可能である。

富士山五合目総合管理センター（吉田ルート五合目）

TEL：0555-72-1477

富士山総合指導センター（富士宮ルート五合目）

TEL：090-2182-2239

(3) 登山ルート別の特徴及び施設紹介・注意点

ア 吉田ルート

項目	内容	
施設紹介 ・ 注意点	<ul style="list-style-type: none"> 山梨県富士山五合目総合管理センター（富士スバルライン五合目）、富士山安全指導センター（六合目）で登山情報を提供している。 富士山五合目・七合目及び八合目の救護所は、登山シーズン中、医師（又は看護師）が常駐している期間がある。 本八合目（上江戸屋）で須走ルートと合流し、登山道が渋滞することがある。 頂上から八合目までの下山は、須走ルートと同じブル道を利用した下山道を利用。ブルドーザーとすれ違うときは、早めに安全な場所で退避する。 7月はじめには、残雪のため下山道を利用できないことがあるため、登山を開始する前に下山道の状況等を富士山安全指導センター（六合目）で確認する。 下山道八合目（下江戸屋）の須走ルートとの分岐点に注意。標識を良く確認する。吉田ルートは、山小屋「下江戸屋」前の細い道を通る。 八合目（下江戸屋）の分岐後、下山道には、山小屋がない。公衆トイレは七合目と六合目にあるが、七合目は大変混雑するため、山頂や本八合目の山小屋で済ませるか、六合目安全指導センター横を利用する。 	
登山情報等 問合せ先	富士山五合目総合管理センター(五合目)	0555-72-1477
	富士山安全指導センター（六合目）	0555-24-6223
	(財)ふじよしだ観光振興サービス	0555-21-1000

イ 須走ルート

項目	内容	
施設紹介 ・ 注意点	<ul style="list-style-type: none"> 須走口五合目の観光案内所で登山情報を提供している。 登山シーズン中は臨時派出所を併設する。 本八合目まで、一部で下山道と同じである。 登りを優先し、狭い場所では譲り合いを心がける。 本八合目（上江戸屋）で吉田ルートと合流する。 日の出前は、八合目以上で登山道が渋滞することがある。 頂上から八合目までの下山は吉田ルートと同じブル道を利用した下山道を利用。ブルドーザーとすれ違うときは、早めに安全な場所で退避する。 7月初めには、残雪のため、ブル道を利用した下山道を利用できないことがあるが、その場合は登山道を下山する。 下山道は、八合目（下江戸屋）で吉田ルートと分岐する。 登山者の流れにのった吉田ルートに迷い込まないよう標識に注意する。 七合目から砂払走五合目までは、砂の傾斜を一直線に下る「砂走り」。砂地なので足への負担は少ないが、砂に岩が混じっているため、転倒や捻挫に注意する。 途中でブルドーザーの通る道へ間違っていると、道に迷いやすいため注意する。 砂払走五合目からは樹林帯に入り、日没を過ぎると暗くなるため、ヘッドランプは必須である。 砂走りは目標物が少ないので濃霧時は道迷いに注意が必要である。 	
登山情報等 問合せ先	小山町観光協会	0550-76-5000
	小山町商工観光課	0550-76-1111(代) 0550-76-6114(直)

ウ 御殿場ルート

項目	内容	
施設紹介 ・ 注意点	<ul style="list-style-type: none"> 御殿場口新五合目には、登山シーズン中、臨時観光案内所が開設され、登山情報を提供している。 七合目まで山小屋がないため、五合目で食料や水などを準備し、トイレを済ませる。また、落雷などの悪天候時には避難場所が少ないため、注意が必要である。 七合目から頂上まで、登山道と下山道が同じ。登りを優先し、狭い場所では譲り合いを心がける。 八合目から上は浮石が多いため、特に落石に注意する。 ブルドーザーの通る道に迷いこむと危険なため注意する。 頂上からの下山は、登ってきた道を下る。 七合目からは「大砂走り」を下る。砂地なので足への負担は少ないが、砂に岩が混じっているため、転倒や捻挫に注意する。 七合目からは登下山道とも目標物が少なく、濃霧時には道はずしやすいため、標識柱や誘導ロープを見落とさないよう注意する。 4ルート中、最も登山者が少ないため、ほとんど混雑しないが、救助を求める場合など、周囲に登山者はいないことがある。 六合目で分岐し、宝永遊歩道から富士宮ルートへ至る。 	
登山情報等	御殿場市観光協会	0550-83-4770
問合せ先	御殿場市商工観光課	0550-82-4622

エ 富士宮ルート

項目	内容	
施設紹介 ・ 注意点	<ul style="list-style-type: none"> 富士山総合指導センター（富士宮口五合目）で登山情報を提供している。 五合目及び山頂付近に公衆トイレがある。 山頂の公衆トイレの利用可能期間は、7月上旬から9月上旬までである。 六合目で宝永火口方面への遊歩道と分岐。宝永遊歩道は、宝永火口を経て御殿場ルートへ至る。 傾斜がきつく岩場が多いため、落石やつまづきによる転倒に注意する。 登山道と下山道が同じであるため、登りを優先し、狭い場所では譲り合いを心がける。 八合目に富士山衛生センター（救護所）があり、登山シーズンには医師が常駐している期間がある。 	
登山情報等	富士山総合指導センター（五合目）	090-2182-2239
問合せ先	(社)富士宮市観光協会	0544-27-5240
	富士宮市観光課	0544-22-1155
	新富士駅観光案内所	0545-64-2430

(4) 情報入手

夏山期間の登山についての詳細は、環境省・山梨県・静岡県による富士登山のための総合サイト「富士登山オフィシャルサイト（<http://www.fujisan-climb.jp>）（日本語及び英語版）」を参照する。

5 問い合わせ先

本ガイドラインに関する問い合わせは、下記のとおり。

- 静岡県文化・観光部文化局富士山世界遺産課安全対策班 TEL 054-221-3747
- 山梨県観光部観光資源課富士山山岳担当 TEL 055-223-1521

※本ガイドラインは、「富士山における適正利用推進協議会」（土地所有者、各県警、各遭難対策協議会を含む全ての富士山関係機関が参画）により作成されたものである。

(参 考)

登山計画書

年 月 日

御中

所 属 山岳連盟（協会）

団体名 緊急連絡先

所在地 氏名

住所

電 話 電話 昼間 夜間

代表者 救援態勢 ある（ 名）・なし

目 的				登山方法			
目的の山域・山名							
任 務	氏 名	生 年 月	性別 血液型	現住所・電話番号	雨具 の色	緊急連絡先・氏名	承 諾 有・無
		日 年齢			ザック の色		
CL							承 諾 有・無
							承 諾 有・無
							承 諾 有・無
日付	行動予定 期間			～	予備日		
荒天、非常時対策、エスケープルート、その他							
食糧 1人当り		食分	非常食 1人当り		食分	予備食 食分	
共同装備							
燃料		リットル	テント（色		）	ツェルト（色	
無線（		台、アマチュア無線、その他	[M h z]]		
携帯電話（氏名・電話番号)			
GPS		ビーコン	レスキューシート		発煙筒		

※ 無線や携帯電話は、予備電池等も準備してください。

※ 「承諾有無」：緊急連絡先の方が富士山に入山することを承知しているか記載してください。下山していない、連絡がとれないなど遭難に気付くことができる方（家族、クラブ（山岳会）、職場、学校など）に計画を知らしめておくことは迅速な救助に重要です。

※ 雨具、ザック、テント等の色と GPS、ビーコン、レスキューシート、発煙筒の有無は、搜索する際の参考とします。

※ 夏山期間中以外では、公衆トイレや山小屋のトイレは閉鎖されています。自然環境への影響を軽減するために携帯トイレを持参して、排泄物を持ち帰るようにしましょう。

